

東濃社会教育だより

Plus

— 研修会 —

岐阜県恵那県事務所
振興防災課 振興防災係
社会教育担当:丹羽 達也
〒509-7203
恵那市長島町正家後田 1067-71
TEL:0573-26-1111 内線 208

おお！ みんななかよし 大中小だ！

「大中小ってなんのことだろう？」。答えは(おおなかしょう)学校です。

12月1日に行われた郡上市立大中小学校の「CS・地域学校協働活動公表会」。公開された授業は、全6学年で午前2時間、午後1時間の18時間分の授業、さらに読み聞かせやクラブ活動にも地域の方が参加され、子どもも地域の方も保護者も先生も、みんな一緒に地域(人、もの、こと)のよさをたっぷり学び、楽しむ。そんな大中小学校の取り組みを紹介します。

<授業の様子>



公民館活動について考えよう



手話クラブの様子



戦争体験のお話



地域の短歌名人の授業



食品ロスについての体験学習



サロン訪問の話し合い

<ここが知りたい> どうやって学校に係る地域人材を発掘しているのだろうか？

① パートナーさんたちの呼びかけから広がった事例

・大中小では地域の人材を「パートナーさん」と呼んでいます。グランドの環境整備作業に参加したパートナーさんの声掛けから、地域の「剣道名人」とつながりました。そして名人さんの授業につながりました。

② 学校の先生の呼びかけから広がった事例。

・こんな人いないかな？ 先生の何気ない会話から「みそづくりのできる方」「カヤックの選手」「バランスボールのインストラクター」「地元のサークルリーダー」など、事務職員や先生方の紹介からパートナーさんにつながりました。

③ 依頼した組織から地元へとつながった事例

・総合の時間に依頼した社会福祉協議会や漁業協同組合の方が、授業に地域の方を呼んでつながりの輪が広がったり、福祉施設やアマゴの放流活動など、地元ならではの施設の方とつながりていました。

<ここが知りたい> 地域とのつながりづくりに関する考え方は？ 「つなげる」「ひろげる」「つづける」

○ 既存の組織と大中小パートナーの両方で「できることで、ゆるく、たのしく、つながる」取り組みを進めること。

○ パートナーさんとの関係は「休みます」と言える関係、実現不可能なことでも「やってみたいんだけど」と言える関係。

○ 実現可能な範囲や形で「楽しかった」「やってよかった」を積み重ねることが、つながり作り、そして継続のコツ。

CSや地域学校協働活動の導入が進む中で、各地で具体的な実践事例が紹介されるようになってきました。今回の大中小学校のCS・地域学校協働活動の取り組みは、東濃地区での実践においても、参考になる点がたくさんあり、ほんの一部ですが紹介させていただきました。

20年以上続く「加子母教育の日」

中津川市立加子母小・中学校で行われた「加子母教育の日」(11/26)について紹介します。この取り組みは、「地域の教育について考え、語り合う日」として始まった地域参加型の授業参観です。近年、各地で学校運営協議会や地域学校協働活動を通じた学校と地域の連携が強化されてきていますが、加子母地区ではそれよりもずっと前から「加子母教育協議会」が中心となり、「子どもたちは地域の子ども。地域みんなで育てよう」という志のもと、独自の魅力ある教育活動が展開されていますので紹介します。

<各学年の授業内容>

学年	授業の内容(テーマ)
小学1年生	むかしばなし・かしもかるた・木のおもちゃを楽しもう
2年生	絵手紙を通して加子母を知ろう
3年生	明治座・歌舞伎を学ぼう
4年生	森のはなし ～森のはたらきを考えよう～
5年生	加子母のトマト 55年の歩みと取り組み
6年生	阿寺断層について学び、伝えよう
中学1年生	加子母の山を知り、林業を考える
2年生	加子母で働く思いに学ぶ・加子母の仕事を知る
3年生	加子母の元気を調べ保護者や地域住民に報告しよう



歌舞伎の見得を切る3年生。聞いて、見て、触って、やってみる。子どもも、親も地域先生も、笑顔いっぱいの授業でした。

<ここがポイント> 📍 地域と子どもたちの学びをつなげられるように、すべての学年に加子母教育協議会の委員さんが担当として入り、地域の方が地域先生として複数配置され、どの学年の授業も加子母地区の魅力を存分に味わえる内容となっていました。



中学3年生では、調査してきた加子母地域の課題をもとに、生徒たちが、「加子母の元気」をさらに高めていくために、何が出来るのかをまとめ、参観した保護者に伝えていました。

→右の写真は授業参観の前に行われた「PTA座談会」の様子です。

加子母小・中学校の2人の校長先生から、「少子化に伴う今後の見通し」や、「学校運営協議会の仕組みや運用」等についての説明がありました。その後の意見交流も活発に行われ、校長先生、保護者、地域の方が車座になって、直接思いや願いを伝えあえる素敵な座談会でした。



加子母のトマトはブランドトマト！5年生はトマト栽培の体験で半年間、お世話になってきた地域先生から、先人の足跡や苦労について学びました。



< 令和5年度東濃地区社会教育振興協議会 >

事務局は恵那県事務所振興防災課及び恵那市にあります。 FAX 0573-25-7129

TEL 0573-26-1111 (内線208) Eメール niwa-tatsuya@pref.gifu.lg.jp